

令和3年度しまなみ観光魅力度向上調査事業 結果概要

【調査背景】 withコロナ時代における「新しい旅行スタイル」を把握して観光需要に備えよう

■ コロナ禍での旅行スタイルの変化

2020年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年現在も観光産業は厳しい状況に置かれている。度重なる緊急事態宣言/まん延防止等重点措置の発令や延長により、人々は移動の制限・自粛を迫られ、社会経済的な側面だけでなく、心理的な側面においても、様々な影響を受けていると考えられる。

このような状況にあって、旅行や観光に対する人々の意識や行動にも変化が見られる。「三密」を回避しながら旅行を楽しむための工夫として地元や近隣へ旅行を推奨する「マイクロツーリズム」が提唱されたり、テレワーク等を活用して普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行う「ワーケーション」の流行の兆しが見られたりするなど、「新しい旅行スタイル」に注目が集まっている。

■ withコロナ時代における「新しい旅行スタイル」に適応した受入環境整備

観光庁が指摘するように、観光産業の中核をなす宿泊業及び旅行業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前から、生産性の向上や旧来型事業モデルの転換等といった様々な課題が存在しているところである。宿泊施設の高付加価値化による観光産業の収益率向上、DXの推進によるサービスの変革、ワーケーション等の普及による旅行需要の平準化などに取り組むことが必要である。

アフターコロナを見据え、しまなみ海道においても、こうした課題への対応も含めて「新しい旅行スタイル」に適応した受入環境整備を実施していくことが重要であるため、調査を実施した。

【調査概要】

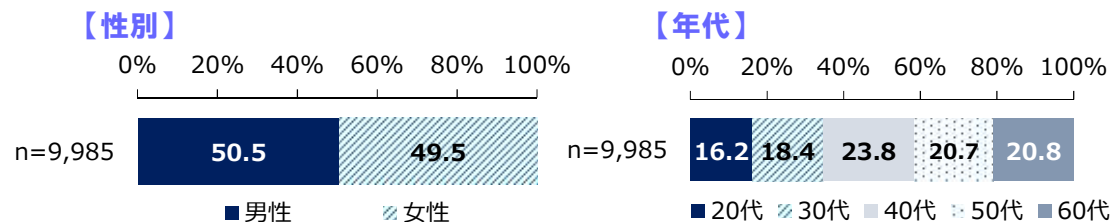
- ・調査対象：しまなみ海道に訪問意向がある20-69歳の男女
- ・調査地域：全国
- ・回収数：スクリーニング調査9,985サンプル
本調査2,270サンプル
- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査期間：令和3年11月8日～11月9日

*本報告書を読む上での注意点：調査期間における新型コロナウイルスの状況について

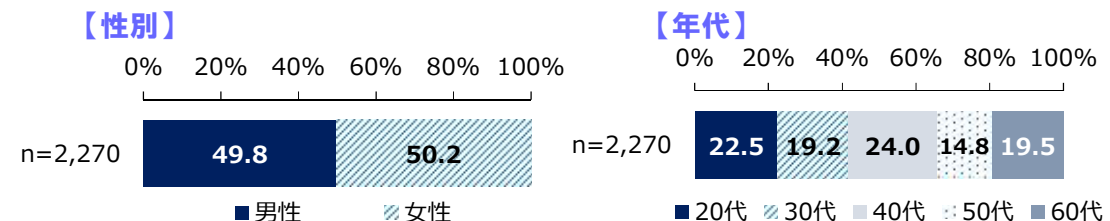
本調査を実施した令和3年11月における新型コロナウイルスの新規陽性者数は、オリンピックが開催されていた8月頃や、オミクロン株が流行しはじめた令和4年1月中旬～3月現在に至るまでと比べると、感染状況は比較的落ち着いているものであったと考えられる。

このような社会状況が、アンケートの回答者にいくらか影響を与えた可能性は否定できないため、回答内容の解釈には注意が必要である。（有り体に言えば、調査当時はコロナに対してやや楽観的な物事の見方をする人も一定数存在した可能性があると思われ、そのような意識が回答結果に反映されている可能性がある）

●スクリーニング調査の回答者属性



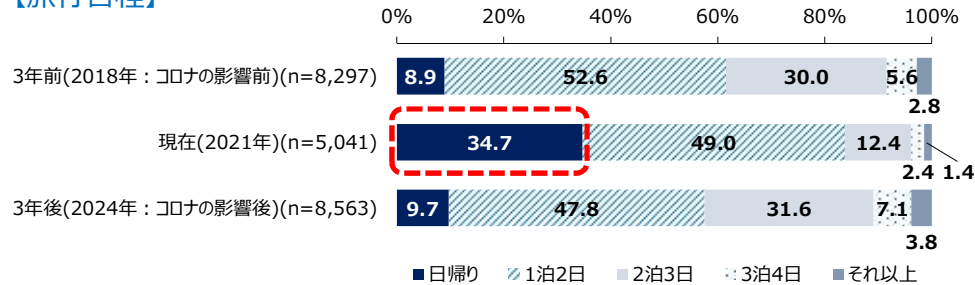
●本調査の回答者属性



令和3年度しまなみ観光魅力度向上調査事業 結果概要

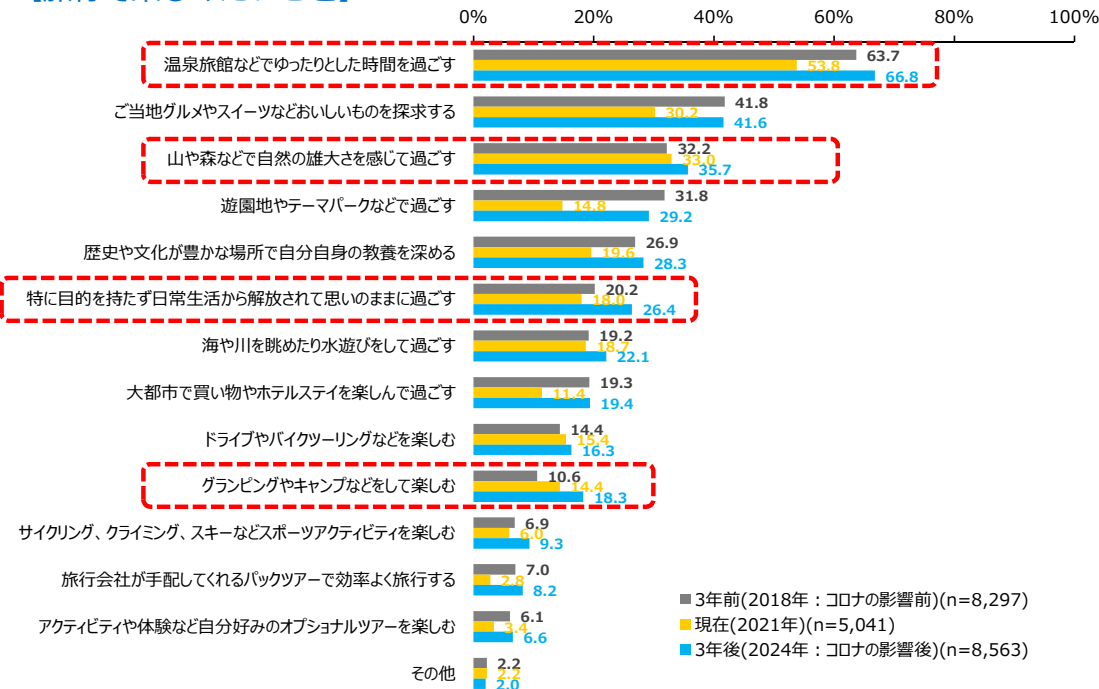
コロナによる旅行意識・行動の変化

【旅行日程】



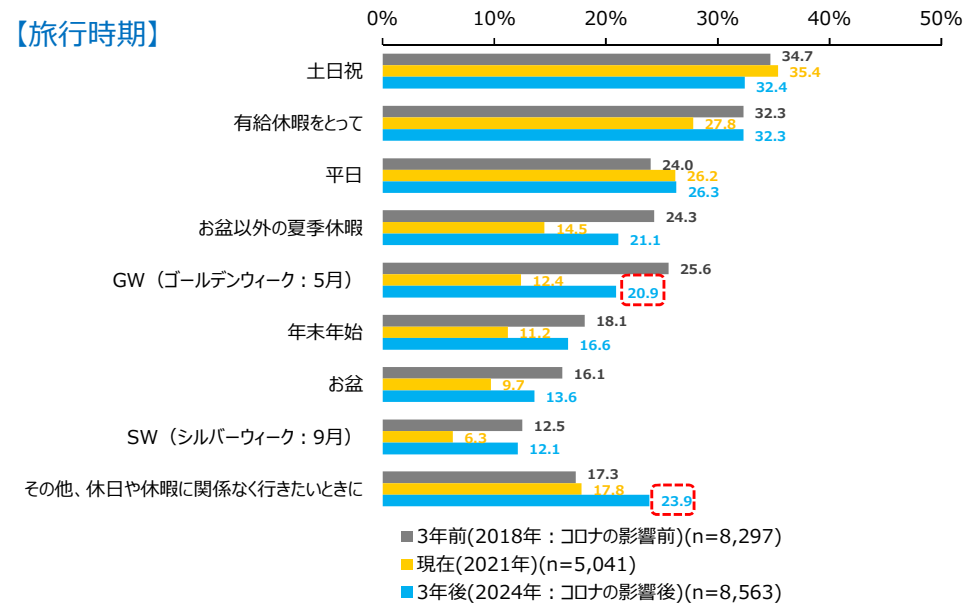
- 現在（2021年）は日帰り旅行の割合が増加している（34.7%）が、コロナ後（2024年）はコロナ以前と同等の割合（10%未満）に戻るとの見通し
⇒ 旅行需要は下降の一途をたどるわけではなく、回復の兆しがある
- 旅行時期では「GW」の割合が減少し「休日や休暇に関係なく行きたいときに」が増加
⇒ 一部では暦にとられない旅行習慣が定着する可能性がある

【旅行で楽しみたいこと】

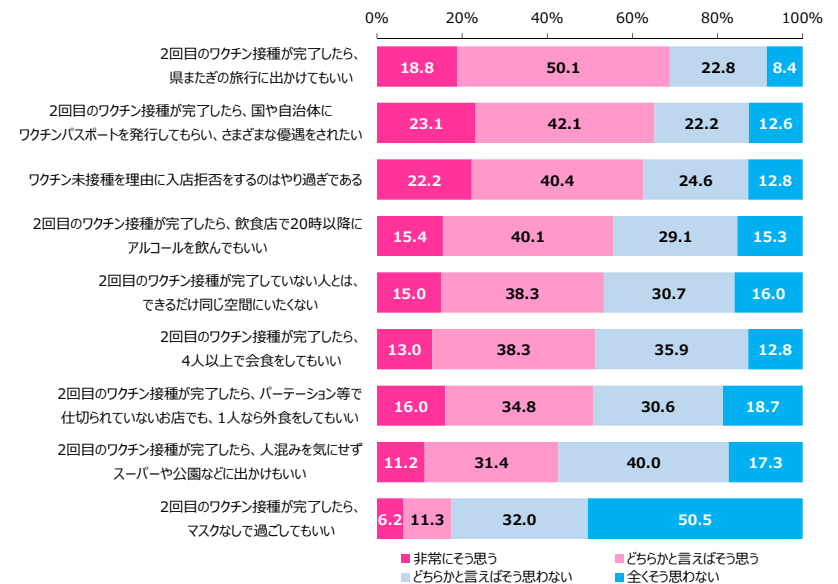


- コロナ後は「思いのままに過ごす」アウトドア・三密回避需要が増加

【旅行時期】



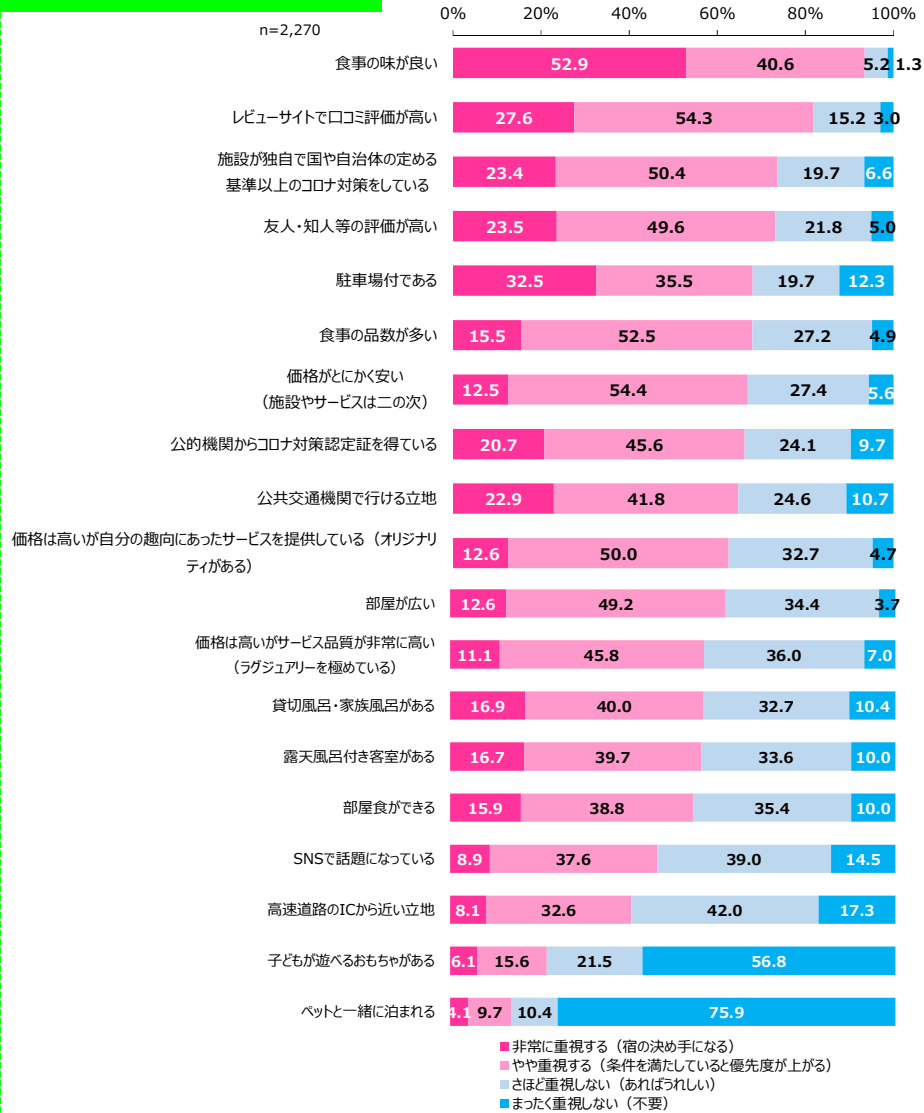
ワクチン接種による観光行動の変化



- ワクチン接種後は「県またぎの旅行」が可能になるとの期待の声が強い
⇒ マイクロツーリズムブームは限定的である可能性？

令和3年度しまなみ観光魅力度向上調査事業 結果概要

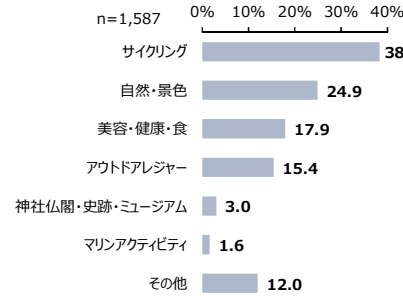
宿泊施設への期待



- 宿泊施設選びにおける食事の重要性は高い
- 「レビューサイトの評価」「友人・知人等の評価」も重視されており、口コミ対策も重要

しまなみでやりたいこと

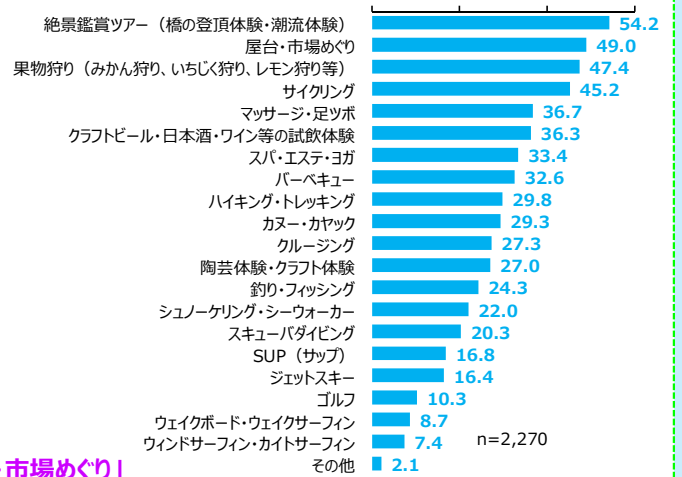
【純粹想起】



- 純粹想起では「サイクリング」「自然・景色」が上位
- ⇒ サイクリングのブランド力

- 助成想起では「絶景鑑賞ツアー」「屋台・市場めぐり」「果物狩り」などが上位
- ⇒ オプショナルツアーが選択可能なことを認識してもらうことが重要

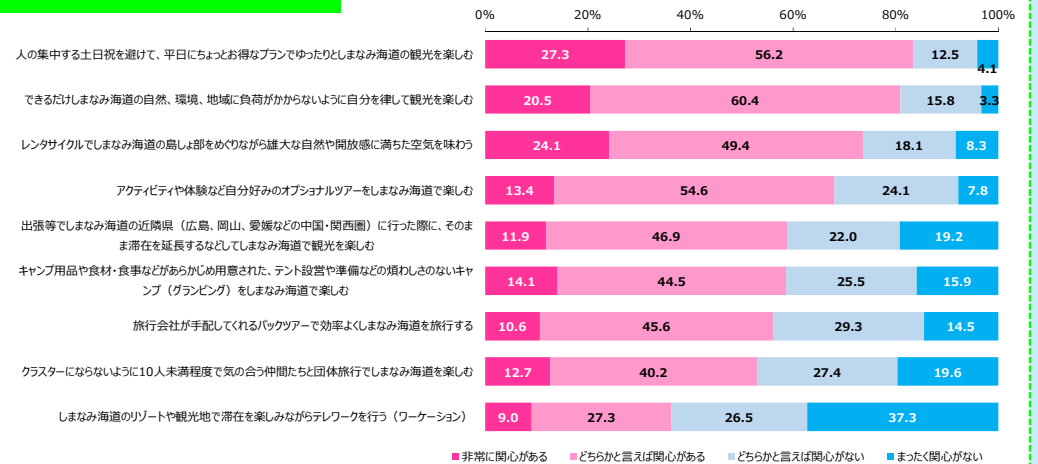
【助成想起】



*純粹想起法…選択肢 (ヒント) を提示せず
思い浮かぶことを回答させる方法
*助成想起法…選択肢 (ヒント) を提示して
思い浮かぶことを回答させる方法

新しい旅行スタイル

- 「平日観光」「レスポンスブルツーリズム」への関心が高い



まとめ

- ★ アフターコロナを見据えた受入環境整備の必要性

⇒ アフターコロナにおいては、下記の点を踏まえた受入環境整備が必要である

- ① コロナ前と同程度の旅行ニーズを捌ける人的・物的リソースの確保
- ② 土日祝や大型連休のピーク時以外でのオペレーションの平準化
- ③ 旅行者のニーズの変化を踏まえたコンテンツの提供

- ★ サイクリング以外の観光資源の磨き上げによる相乗効果の可能性

⇒ 「絶景鑑賞ツアー」「屋台・市場めぐり」「果物狩り」など、サイクリング以外の観光資源を磨き上げ、オプショナルツアーとして提供することによって、サイクリスト以外の観光客の関心をひくことができ、かつ、サイクリストに対しても消費機会を提供することで、消費単価の向上をねらうことができるという相乗効果が期待される